

2026 年度 社会学部学校推薦型選抜指定校制推薦入学

【 小 論 文 課 題 】

【問題】

近年、日本の若者たちが海外のワーキングホリデーを利用する目的が変化していると言われています。一方、諸外国から日本国内に、ワーキングホリデー制度を利用して働きに来る若者も増えており、今後のワーキングホリデー受け入れ対象国やビザの取得回数の拡大も検討されています。このような、国境を越えた人々の移動に関する資料 A～D をもとに、以下の間に答えてください。

<問1>

資料 A、B、Cに目を通し、その内容を要約してください。その際、(1)日本から海外に行く若者のワーキングホリデー、(2)海外から日本に来るワーキングホリデー、それぞれのケースに分けて、資料内にあるグラフにも言及しつつ、ワーキングホリデーの現状や、その現象が生じている社会的背景について、全体 450 字程度でまとめてください。

<問2>

資料Dに目を通してください。資料A～Cの内容もふまえつつ、初めに、日本や諸外国の若者たちのワーキングホリデーに共通する特徴や課題として読み取れることをいくつか指摘してください。続けて、資料 A～D すべての内容を手掛かりに、今後の日本で、諸外国からのワーキングホリデー受け入れを拡大する際には、どのようなことを検討していく必要があるかについて、あなたの意見を 450 字程度で論じてください。

<出典>

資料A:『『出稼ぎ』ワーキングホリデー 渡航先の職探し『甘くない』』(『日本経済新聞』2024 年 1 月 29 日)

資料B:「豪州殺到 ワーホリ飽和」(『朝日新聞』2024 年 8 月 17 日)

資料C:「欠かせぬ助っ人、海外から スキー場支えるワーホリ利用の若者」(『朝日新聞』2023 年 12 月 28 日)

資料D:「日本に暮らす外国人 斎藤聖子さん 将来像描き 受け入れ方の議論を」(『朝日新聞』2025 年 8 月7日)

*印刷の都合上、一部の資料について、レイアウトを変更しています。

「出稼ぎ」ワーキングホリデー

渡航先の職探し「甘くない」

ワーキングホリデーの利用者が職探しに難航するケースが相次いでいる。新型コロナウイルス禍の収束で働き手が戻ったことが背景。円安基調で「出稼ぎ」に注目が集まる一方で、滞在費がかさみ帰国を余儀なくされる人も出ている。

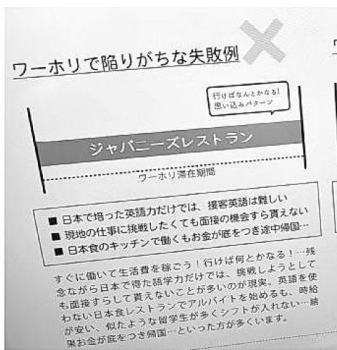
「稼げる」と思っていたが、現実とは甘くなかった。ワーホリ制度を利用し、オーストラリア・ケアンズに滞在する日本人女性（27）はため息をつく。

2023年2月に現地入りし、語学の勉強をしながら留学資金をためようと職探しを始めた。現地企業の事務職に採用されたのは8カ月後。この間、物価高に加え、シェアハウスの家賃引き上げも重なり、貯金を切り崩す日が続いた。

豪州は、最低賃金が時給約23豪ドル（約2300円）。円安基調もあって、東京（時給1113円）の倍の水準というところもあり、渡航先として人気が高い。

だがアリスベンで暮らす女性（31）は「最低賃

コロナ後、人手戻り競争激化 物価高騰、滞在費かさむ



日本ワーキング・ホリデー協会は現地の状況を調べた上で渡航を勧める

金を下回る時給を提示されたこともあった。同9月に飲食店のアルバイトが決まるまで、およそ4カ月にわたる職探しは100件を超えた。渡航前に思い描いていた生活と現実との違いを実感するという。

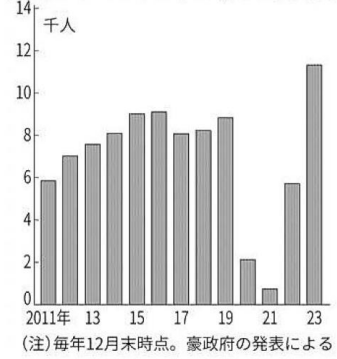
ワーホリ制度を利用して渡航する若者を支援する一般社団法人「日本ワーキング・ホリデー協会」によると、コロナ禍によ

る渡航制限の解除や円安傾向を背景に、22年秋ごろから「出稼ぎ」目的での制度利用に関心が高まった。豪州の場合、農場や飲食店の仕事で月50万〜60万円ほどの収入を得ていた利用者もいたという。スは豪州以外でも出ていない。コロナ禍が明け、昨春頃から留学生や働き手が戻ると人手不足が緩和。採用の競争率が激化し「仕事が見つからない」という相談が増えている（同協会の担当者）。中には滞在を断念し帰国する人もいるという。

シドニー在住の安藤健治さん（34）は、経営する焼肉店のアルバイトの応募者がコロナ禍前と比べて10倍に増えたと明かす。「多くがワーホリの日本人。申し訳ないが、忙しくて1枚ずつ履歴書を目を通す時間もない」

豪州に滞在する日本人のワーホリ利用者らの支援を手掛ける現地エージェント「タイムスタディンクーパー」に渡った女性（22）はホテルスタッフなど30件以上に応募し、日本ワーキング・ホリデー協会は「『行けば何とかなる』ではなく、『当面の生活費をどうかじめる』と語った。『英語力に自信があり、仕事はすぐ見つかる』と思っていただけに『計画的にワーホリを活用してほしい』と呼びかけている。

豪州のワーホリビザを取った日本人



渡航協定、29カ国・地域と

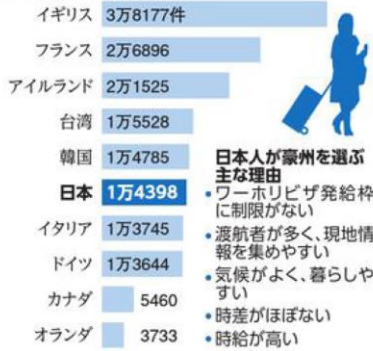
ワーキングホリデーは、渡韓など29カ国・地域（20航先で観光や勉強をしながら、23年8月時点）。専用のビザ取得が必要で、利用は原則が認められた制度で、日本では1980年に豪州との間で期間が1年以内と異なる。豪州の場合、同国が指定する条件などを満たせば、最大3年滞在できる。豪政府によると、制度利用のためのビザを取得している日本人は同12月時点

若者ら交流 異文化理解

で1万1319人。新型コロナウイルス禍前の19年同月（8830人）を超えた。ワーホリや留学の支援サービス「スマ留」を運営するリアブロード（東京）によると、23年12月に同社を利用したワーホリ目的の渡航者数は、コロナ禍前の19年同月比で8.8倍となった。同社の担当者は「海外経験を就職や転職に生かすといった利用のほか、現地の永住権を得る足がかりにするケースもある」という。

オーストラリアの主なワーキングホリデービザ

発給国・地域と件数
豪政府の統計(2022年7月から1年間)から。
サブクラス417ビザを集計



日本人が豪州を選ぶ主な理由

- ワーホリビザ発給枠に制限がない
- 渡航者が多く、現地情報を集めやすい
- 気候がよく、暮らしやすい
- 時差がほぼない
- 時給が高い

豪州殺到 ワーホリ飽和

ワーキングホリデー(ワーホリ)ビザでオーストラリアに渡る人が増えている。日本人向けのビザ発給数が過去最多を記録する中、現地では多くの人が仕事探しの厳しさに直面している。

「もし日本にいたら、この職業は選ばなかったですね」。5月下旬、関西出身の20代の女性はそう話した。いまは、豪州の最大都市シドニーのキャバクラで働く。

豪州に来たのは半年ほど前。コロナ禍で自由に出出できない日々が続く。「後悔しないように生きたい」との思いを強めた。大学を出た後に就職した会社を辞めて来た。

日本を出たのは語学力を磨くため。豪州のワーホリビザ取得者は、最長4カ月しか学校に通えない。「半年は勉強

「語学磨く」渡航 求職30件空振り キャバクラに

「したい」と考え、学生ビザで入国。通学期間が終われば、労働時間に制限のないワーホリビザに切り替えようと考えた。

「とりあえず仕事を始めた」と、求人サイトで飲食店など30件以上に応募したが、返信はなかった。「最後の最後」に市内のキャバクラに応募し、採用された。

時給30豪ドル(約2900円)で週3〜4日、午後7時から深夜まで働く。「学業と両立ができて、効率よくお金を稼げる」と感じている。

午前中は語学学校に通い、シフトに入る日は少し昼寝してから、夜に備える。店に来る客の大半は日本人だが、豪州人のテーブルにつけば英会話の勉強にもなる。

勤務先のこと、日本の両親には秘密だ。「あとは自分とだけ頑張るのか」

女性が働く店の代表の男性(40)によると、求人には毎月70件以上の応募があるという。「雇用の仕事が見つからず、応募者が増えている」

第3の都市、ブリスベンにワーホリビザで滞在する埼玉県出身の男性(30)も仕事探しに苦労した一人だ。「ワーホリで来た人で、仕事探しに苦労していない人は見たことがない」と話す。

市内のレストランを調べ、1週間かけて自分の履歴書計80枚を配り歩き、ネット上の求人サイトでも50件以上に応募した。「いつ仕事が見つかるんだろうと、心が折れそうになった」と振り返る。その後、偶然見つけたレストランで働き始めた。

最低時給2300円「上がりすぎて雇えない」

豪政府によると、日本向けの人向けのワーホリビザ発給数は今年6月までの1年間で過去最多の1万7千件超に達している。

ワーホリビザで渡航し、対応しきれない。ワーカーが仕事探しに苦労するのはなぜか。移住問題の専門家、シドニー大学のアナ・パウチャー准教授は「ワーホリビザ取得者の間で競争が生じているのではないかとみる」。

豪州は現在、約50カ国・地域と協定を結び、ワーホリビザを発給する。同政府によると、今年6月末までの1年間に発給したワーホリビザは23万件超で、過去最多の水準に迫る。

ワーホリビザ取得者を豪州に引き寄せる要因の一つは賃金の高さだ。

豪州の最低時給は24・10豪ドル(約2300円)で、東京都(11〜13円)の約2倍ある。「先進国クラブ」と呼ばれる経済協力開発機構(OECD)でも指折りの高さで、労働組合の強さなどが影響しているとみられる。

ただ、高賃金は働き手にとって魅力でも、雇う側には悩みの種だ。シドニーで日本食レストランを経営する近藤有興社長(38)は「あまりに賃金が高すぎている。簡単に新しい人を雇える状況ではない」と明かす。

豪州ではインフレが続く、生活費が高騰。ホテル・飲食業界では倒産が

増えている。「豪州の景気は決してよくはない」と説明する。そんな中で、求人を出せば、毎日30〜40件の履歴書が送られてくる。「正直なところ、対応しきれない。ワーホリ飽和状態だ」

「出稼ぎバブル」円安背景

コロナ禍以降、長らく円安傾向が続く中、お金を稼ぐことを目的にワーホリ制度を活用する人も出てきた。

東京都出身の鈴木京太さん(31)は、自身を「ザ・出稼ぎ」と表現する。日本では大工をしていた。2021年末に豪州に来てからは、作物の収穫時期を迎える農場を渡り歩いてきた。

働き手の成績表は1日当たりの収穫量だ。二番得意なのはイチゴ(の収穫)と胸を張る。早朝から昼過ぎまで働き、1日に800〜900個を収穫。

「出稼ぎ」を目的とする渡航者が増え始めたのは、最近の傾向だ。シドニーの留学エージェント「マイステージ」の田中千尋社長は「コロナ禍を境に、日本人のワーホリ目的が変化した」と感じている。同社のビザ取得代行サービスなどを受け、約4000人の中で、「語学の勉強よりも出稼ぎ目的の人が増え、全体の約6〜7割を占めるようになった」と話す。

日本ワーキング・ホリデー協会広報の真田浩太郎さんは、コロナ禍以降

同じ職場の人からは「口ポットみたいによく働ける方が稼げる」ということが、ワーホリに興味を持つていた人の渡航を後押しした」と分析する。

同協会によると、23年ごろからは、渡航後に現地で「仕事が見つからない」という相談も増えてきた。中には仕事が見つからず、貯金が底をつき、教力月で帰国する人もいるという。

だが、真田さんは「ワーホリビザでの渡航者数は今後も増え、「出稼ぎバブル」も膨らんだ状態が続くだろう」とみる。

「現地での競争は激しい。英語を勉強したり、情報収集はSNSやエージェントなど複数に当たったりするなど、これから渡航を考える人は事前準備に力を入れてほしい」(シドニー半田浩太郎)



鈴木京太さん

「出稼ぎ」を目的とする渡航者が増え始めたのは、最近の傾向だ。シドニーの留学エージェント「マイステージ」の田中千尋社長は「コロナ禍を境に、日本人のワーホリ目的が変化した」と感じている。同社のビザ取得代行サービスなどを受け、約4000人の中で、「語学の勉強よりも出稼ぎ目的の人が増え、全体の約6〜7割を占めるようになった」と話す。

「出稼ぎ」を目的とする渡航者が増え始めたのは、最近の傾向だ。シドニーの留学エージェント「マイステージ」の田中千尋社長は「コロナ禍を境に、日本人のワーホリ目的が変化した」と感じている。同社のビザ取得代行サービスなどを受け、約4000人の中で、「語学の勉強よりも出稼ぎ目的の人が増え、全体の約6〜7割を占めるようになった」と話す。



資料C

著作権の都合により掲載できません

出典：「（ゲレンデはいま）欠かせぬ助っ人、海外から スキー場支えるワーホリ利用の若者」
『朝日新聞』2023年12月28日 朝刊 長野全県

